

case 03

ダブル技研株式会社

プロジェクト名	食事介助ロボットの開発	
企業の所在地	神奈川県座間市栗原920-7	
企業の事業概要	FA化（工場の自動化、省力化装置）の提案・製作・施工、大学・研究機関等向けの実験・実証機器の開発・製作・販売及び共同研究開発、福祉機器の開発・販売	
実現しようとしているサービス	想定顧客	・ 病院や福祉施設など ・ 在宅療養をされている方（個人）
	想定顧客が抱える課題	・ 利用者の自立、QOL向上 ・ 介護職員不足 ・ 支援者、家族の介護負担増
	サービスが提供する価値	・ 個人を尊重した自己判断による本来の食事方法や時間の提供 ・ 利用者の自立による介護業務負担の軽減 ・ 家族の同テーブルでの向かい合った食事時間共有の実現
開発・実証プロジェクトで取り組んだ内容、県内企業との連携	・ 摂食量の計測機能の開発 ◆ 定点カメラを用いて食事前後の皿の様子を記録。その状態をプログラムにより、食事後で、食べた食事の割合を計測可能とした ・ 食事の自動モードの改良 ◆ 4つの皿をそれぞれを掬う回数（1～3回）、また自動動作のインターバルを選ぶことができるように改良 ◆ スタートとストップはスイッチを押すことで操作可能とした ・ 声掛け機能の開発 ◆ 摂食に関する注意点やナビゲーションを任意のタイミングで任意の自動音声を発報させる仕様とした ◆ 音声操作も任意のコマンド（ワード）で「選ぶ」「掬う」を操作可能とした ・ ロボットの設計・開発や試作において、県内企業と連携	



本事業で開発した食事介助ロボット



実際の使用イメージ（福祉施設での実証）

<問い合わせ先>

ダブル技研株式会社（担当：和田）

WEB : <https://www.j-d.co.jp/index.html>